



⑨

The Fifth Year

エスディーズ達成のためにも、戦後80年と向き合う記事を書きたいというアイデアから、広島で生まれ育ち、幼い頃から平和教育を受けてきた音大生・村田菜さんを取材しました。彼女たちは、被爆者・河本明子さんの日記を何度も読み、その思いに心を寄せながら、明子さんの「被爆ピアノ」とともに音楽付き朗読作品「二十歳になったら」という作品を創作しました。これまでに6回の公演を重ね、音楽と絵を活用した、優しくも平和の本質を問いかける朗読作品で、平和とは何か、平和

に向けて一人ひとりに何ができるかを伝えていきます。きっかけは、大学時代に参加した東南・東アジアの大学生が集うSDGs会議。海外の学生たちが広島県の歴史を深く理解していることに衝撃を受け、広島で生まれ育った自分にできることは何か、「伝える側としての自覚」を強くしたといいます。振り返ってみると、広島で毎年受けてきた平和教育に、重要性は感じつつも、どこか形式的で、恐怖から目を背けたくなくて、恐ろしい内容に違和感を覚えていた彼女は、数字や悲惨さで語られる原爆の被害ではなく、「ひとりの人生」に光を当て、共感から平和を考える新しい表現を模索してきました。



二十歳になったら

When I Turn Twenty...

「もう一度観たくなる朗読作品」を合言葉に、価値観の押し付けではなく、微力でも確かな力を信じて活動が続けておられます。今後は絵本づくりや小学校での公演など、音楽と物語でつなぐ、新しい時代の平和教育を広げていこうとされています。





○のの
・高校2年生

わたしは今回、村田さんのお話を受けて、村田さんご自身の変化について知りたいと思ひ質問をしました。村田さんは、「活動を通して誰かに伝えようとすればするほど、自分自身ももっと戦争や広島について知らなければいけないのではないかと、と責任を感じるようになってきた」そうです。終戦から80年が経ち、戦争を実際に体験した方が少なくなっている今、村田さんを含め私たちはその出来事を直接知ることが難しいため、伝え方や表現などが適切でふさわしいのかについては未知の世界にいるのだと思います。けれどそんな中

でも、少しずつでも、村田さんのように自分の好きなことと繋げるなどしながら学び続けることが、過去と向き合うということなのではないでしょうか。誰かに伝えようと試みる中で、自分自身の理解も深まり、そこから新しい学びが生まれていくこともあると思います。この学びの連鎖は、「今を生きる」私たちにはできないことではないでしょう。私もその学びの連鎖の一員となって、自分なりに知り考えることから戦争や平和について考えられる人になりたいと思いました。



○Minaty
・高校1年生

村田さんが原爆の悲惨さを、

講演会やスピーチではなく、音楽と絵を活用した朗読劇で伝えたことに、僕はとても共感しました。何故なら、僕は美術を勉強しているので作品を通じて何かを伝えることを大事にしているからです。朗読劇のようなエンターテインメントを通じて伝えることで、原爆被害の怖さを抑え、興味を持って情報に触れてもらいやすくすることができそうです。また、自分の考えを押しつけるのではなく、自分だっただろうのか？と自ら考えるようになるのだと思います。僕だったら、アートワークショップでみんなに平和を考えてもらいたいと思います。原爆の悲劇の話聞いてもらい、今思っていることを紙に書き出していき、そこ





で出てきた言葉を元に作品のコンセプトを決めて、みんなで作品を作った面白かったと思います。

完成した作品は街のオブジェとして展示します。

今出した案以外にも、他にも多くの問題を伝える表現方法があると思います。いつか自分も試してみたいです。



○やうい ・高校2年生

わたしは今年の夏、祖母が参加している戦争放棄をスローガンに掲げて活動している勉強会に参加しました。参加していた方々は、口を揃えて「孫や親戚に戦争について話す機会がない」とおっしゃっていました。そこで村田さんの活動

を知り、感銘を受けました。

私は、戦争を体験していない若者が、戦争を自分ごと化するにはどうすれば良いのかと質問した際に「自分が体験すればわかる。しかしそれらを言葉や教育で説明しなければいけない。それはとてもむずかしいから価値観を押し付けず、これで伝わらなければいい」というスタンスでいると教えてく

れました。また、メッセージを言葉だけではなく作品全体で表現すること、この人にはどうひつかかるかな」という視点も持っているとおっしゃっていました。私は、この「完璧を求めない」村田さんのマインドが私たちが戦争を学ぶ際にも重要だと思いました。戦争だけでなく、震災や性教育、

障がいなど「配慮が必要だが、避けてはならないテーマ」は社会に沢山あります。私はこの様なテーマを扱うことはリスクがあるから多くの人が口に出さず、風化していつてしまうのだと思います。まずは完璧を求めず、関心をもって学びはじめることが大切だと思いました。

宿泊イベントのご案内

この冬休み、12月22日(月)・23日(火)に、山梨県のお寺で1泊2日の宿泊イベントを開催します。食に関心がある方や、心と体を調えたい中高大学生や大人のみなさん、ぜひご参加ください。

事前説明会申し込み↓

